

編集後記

<特集の編集を終えて>

* シミュレーション特集は、1987年 (Vol.37, No.4) にも掲載しましたが、その後のソフト・ハード両面での飛躍的発展により、新たな成果が増えましたので、21世紀を迎えたことを機に再び特集を組みました。コンピュータのハード面での発達、近年凄まじく、この10年でも計算速度・記憶容量が1000倍のオーダで向上しており、シミュレーションの適用領域は飛躍的に拡大しています。当社においても、この潮流に乗って、様々な製品や生産プロセスにシミュレーションを応用してきました。シミュレーション技術は、顧客に直接見える形にはなりませんが、製品には、いわば「隠し味」として含まれています。すなわち、製品の安全性、耐久性、信頼性、品質、コストなどを向上させるツールとして、シミュレーションは日常的に活用されており、現在は基盤技術のひとつとして社内定着したと言えます。もちろん、ハードの

進歩に頼るだけではシミュレーション技術の発展は限られており、応用技術のブラッシュアップやプログラム開発などソフト面でも当社独自の努力を続けています。

* 本特集号では、当社の特徴あるシミュレーション技術を解説の形で紹介しました。対象とした分野は、鉄鋼、アルミニウム合金などの材料生産プロセス分野、機械、プラント、鋼構造物などの設計・制御分野、及び情報通信分野です。当社の数多い技術の中で、部分的にでもシミュレーションを含んだものは枚挙にいとまがないほどであり、掲載記事の選択には苦慮しましたが、最終的にこのような形にしました。記事は、できるだけ幅広くご紹介することと、分かりやすさを狙いましたが、狙いどおりになったかどうか読者の方々からご意見いただければ幸いです。今後も、紙面の充実を図っていく所存ですので、よろしく願い申し上げます。

(中川知和)

次号予告

<造船・橋梁・建築材料>

* 鉄鋼業界をはじめとして造船・橋梁・建築などの我国の重厚長大産業は、長期にわたる景気の低迷や、世界市場における中進国の急激な追い上げなどにより、厳しい経営環境にさらされています。このような中で、各業界・各企業とも、独自商品の創出、品質の向上、徹底したコストダウンなどの技術開発課題に、自らの命運を賭けて挑戦しているものと思われれます。

* しかしながら、比較的成熟度の高いこれらの業種においては、材料、設計、施工など単体の技術開発のみでは得られる効果に限界があり、需要家での利用技術まで踏み込んだ材料開発、施工コストをミニマイズする設計など、いわば組合わせの技術開発を志向して行かなければ市場に受け入れられるのは難しくなっているのではないのでしょうか。当社ではこのような考えのもとに、鉄鋼材料、アル

ミ・銅、チタン、溶接材料・溶接機器、機械、環境・エンジニアリングなど社内各部門の連携を取り、需要家によるこんで頂ける新商品・新技術の開発に鋭意取り組んでいます。

* 次号の造船・橋梁・建築材料特集では、造船の工作精度向上を可能とする残留応力制御型鋼板(ヒズミレス)、ディーゼルエンジン用鋳鋼性クランク軸の新加工方法、橋梁の厳しい腐食環境にも耐えうる海浜・海岸耐候性鋼板・専用ボルト・専用溶接材料、大入熱溶接に耐えうる建築用SA440鋼板、CFT(KBコラム)ダイヤフラム部の新設計方法などの最近の開発成果をご紹介します。当社が需要家各位にVA提案したい内容、需要家各位における具体的な期待効果を、可能な限り定量的にご提示することを念頭に編集致しますので、ご期待下さい。

(小宮幸久)

編集委員

委員長	佐藤 廣 士
副委員長	永井 信 介
	服部 重 夫
委員	泉 博 二
	江藤 武比古
	於久 英 一
	小宮 幸 久
	神保 淳 一
	杉井 謙 一
	高橋 知 二
	中川 知 和
	松下 行 伸
	結城 滋
	<五十音順>
本号特集編集委員	中川 知 和

R&D / 神戸製鋼技報

第51巻・第3号(通巻第199号)

2001年12月1日発行

非売品 <禁無断転載>

発行人 佐藤 廣士

発行所 株式会社 神戸製鋼所
秘書広報部
〒651-8585
神戸市中央区脇浜町1丁目3番18号
<http://www.kobelco.co.jp>

印刷所 福田印刷工業株式会社
〒658-0026
神戸市東灘区魚崎西町4丁目6番3号

お問合わせ先 神鋼リサーチ株式会社
〒651-2271
神戸市西区高塚台1丁目5-5
(株)神戸製鋼所内
TEL(078)992-9764